

木オだよソ

社会福祉法人 東香会
しぜんの国保育園 small village

Nov. 2023



法人理念
いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 永続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

11月主題 いろどりの中に たくさんのたね

大切な人の大切にしていることを大切にする。これは人と一緒にいるときに、心に置いていることのひとつ。シンプルなことですが、とても重要なことです。そして私は好きなこと、大切なことを取り組んでいる人の表情が大好きで、その傍らにいられることに心から喜びを感じています。

いよいよ11月に行われるこども美術館でも、こども一人一人が何を大切に思っているかを慎重に見つめています。

「いいこと思いついた」「やってみよう」という、こどもたちの「遊ぶところ」をいかに私たち保育者がグッとキャッチできるか、そして、一緒に「それ、おもしろいね！ やってみよう！」と、こどもと一緒に心身を動かすことができるかが重要になってきます。これまでの、私たちの関係性が表出されますね。

0歳児から5歳児までの表現の世界。そして文脈。ストーリー。心のリズムに合わせて動く、こどもたちの表現の世界を保護者の皆さんと感じ合いたいです。

園長 齋藤美和

じむしょ 小窓 だより

長い夏がようやく終わり、戸外での活動が気持ちの良い季節になりました。先日は秋風ランチを園庭で行いました。秋空の下、元気に園庭で走り回ったあとに食べる外ランチは子どもも大人も食が進みます。お天気の良い日にはクラスやチームからのリクエストがあればいつでも外でランチをすることが出来るのがしぜんの園ならではのランチスタイルです。昨日は、0歳クラス子どもたちがテラスでのランチを初体験。明後日は、近くの公園にお出かけする幼児クラスは公園でランチパックに詰めたお弁当を食べる予定です。

先月、甘いパンとしょっぱいパンから好きなものをひとつずつ選ぶことができる「からすのパン屋さん」を行った時のこと。小さな手で慎重にトングを持ち自分のトレイにそっと運ぶ子どもたちの姿がとても新鮮でした。その日はからすのパン屋さんにちなんでからすをかたどったクッキーをけやき組にプレゼントしました。見た目はからすの形をした普通のクッキーですが、「このクッキー味噌の味がする・・・」とつぶやいた子がいました。それはまさにけやき組が作ったけやき味噌を使った味噌クッキーの生地だったのです。味噌クッキーは知らずに食べるとチーズのクッキーのような味がするので、味噌が入っていると感じたその子の味覚の敏感さはとても素晴らしいなと感じました。給食の献立を作る時に、子どもたちが安心して食べることが出来るもの（食べなくても味が想像できるものや経験値が高いもの）以外にこれはどんな味がするんだろうと想像をわきたてるようなものもいれています。これからも積極的に取り入れながら子どもたちの食の経験値を増やし、味覚を刺激していけたらと思っています。

キッチンマネージャー 三木



村の春夏秋冬

～季節のたより・11月～

実りの多い11月。園では、7日には収穫祭もありますね。日々の中で必ず声に出す言葉。「いただきます」「ごちそうさま」何げなく使っている単語ではありますが、意味があり使われているのです。

「いただきます」の2つの意味

1つ目は、食材への感謝。肉や魚はもちろんですが野菜や果物にも命はあります。その命を私の命にさせていただきますとそれぞれの食材への感謝の気持ちを表しているようです。

2つ目は、食事に携わってくれた方々への感謝。調理してくれた方や野菜を育てた方、魚をとってくれた方などその食事に携わった全ての方への感謝の心を表しているとのこと。

「ごちそうさま」

漢字で書くと、御馳走様。昔は今のように冷蔵庫などが無いので新鮮な食材を揃えるのは大変でした。そのため「馳走」と記し、走り回っていたという様子を表したそう。その後、丁寧な言葉として「御」をつけて今の御馳走という言葉になり、もてなすという意味が含まれたようです。そして最後にいただきますと同様、食事の準備をしてくれた方への感謝を込めて「様」がつき、ごちそうさまと最後に挨拶するようになったのです。

言葉1つ1つにはいろいろな意味が込められています。

そして、食は私たちにとってとても必要なもの。今月はより食への関心を高め、1つ1つの言葉を丁寧に伝えていきたいですね。

